

* 1987年のJNLTサイトテスト報告のデジタル化アーカイブ

ハワイに建設した「すばる」は世界最高性能を発揮し続けている。今やこの望遠鏡建設のために汗を流した人も少なくなってきた。光赤外の安藤さん、家さん、宮下君、沖田君、そして筆者くらいになってしまった。アーカイブ室新聞72号に現在の太陽フレア望遠鏡の近くで大気の接地乱流の測定実験をした記録写真のアーカイブについて書いた。そのとき計算機を置いた物置が、現在の野球部の物置だということを知っている人も殆どいない。

1987年にJNLT（すばる計画は長い間JNLT (Japan National Large Telescope) といわれていた）の建設予定地のサイトテストが行われた。現地調査隊が編成され、隊長：田鍋さん、隊員：成相、安藤、野口、宮下、中桐であった。実働部隊は野口、宮下、中桐の3人、6ヶ月間を2ヶ月交代でマウナケア山頂の建設予定地の接地乱流の測定を行い、望遠鏡の不動点の高さを決定するための調査が行われた。

人生の幕引きのための身辺整理をしていたら、当時のファイルが出てきた。筆まめな筆者は、毎日の日誌を書き、日本の準備室に送っていたが、公の報告書にはならなかった。このファイルにはサイト調査実行のため、事前に隊長たちが現地に入り滞在するホテル、現地の事情調査などの報告から現地を引き上げるまでに報告書として提出されたものを集めたものである。

この報告書として準備室に提出されたものを集大成し、デジタル化しアーカイブデータとした。公の報告書とはならなかったものも収蔵したアーカイブデータはすばる室にも届け、すばる資料室にも保管される。

この調査が行われた時代には日本には188cm望遠鏡があるのみで、大型望遠鏡に関する知識も少なかった。調査に赴き、マウナケア山頂の現地調査を行う傍ら貪欲に大型望遠鏡についていろんなことを学ぶ事に忙しかった。筆者は専門の鏡面の蒸着について、たまたま筆者の滞在中にIRTFの主鏡の蒸着作業があることを知り、UH88のデイクルーの親玉（トニー・シルベスター）にIRTFのデイクルーの親玉（ロン・コーラー）に渡りをつけてもらい、その一部始終を見学させてもらった。UH88のデイクルーには大変世話になり、またIRTFのデイクルーと仲良しになった。蒸着はCFHTの蒸着装置が使われ、IRTFの主鏡着脱、CFHTへの輸送、洗浄作業など全てを見学させてくれた。これら一連の作業の記録写真もあり、別途アーカイブされる。天文台を去るまでには貴重なデータとして残しておきたいと思っている。マウナケア山頂のJNLT予定地には「Jamie」と書かれた杭（写真1）が立っていたことを覚えている。調査は建設予定地に30mの鉄塔（写真2）を建てて微熱乱流測定として行われた。



写真1 JNLT 建設予定地に立っていた Jamie と書かれた杭



写真2 接地微熱乱流測定用鉄塔

写真3はJNLT建設予定地に、現地調査の数ヶ月前のUH88の観測時に立ち寄った小平、中桐、市川の3人である。



写真3 JNLT建設現場に立つ小平、中桐、市川

図1は田鍋隊長他2名の第1次隊の第1回報告の1頁、図2は宮下隊員による報告の1例である。観測タワーは8月16日にやっと到着した事が分かる。

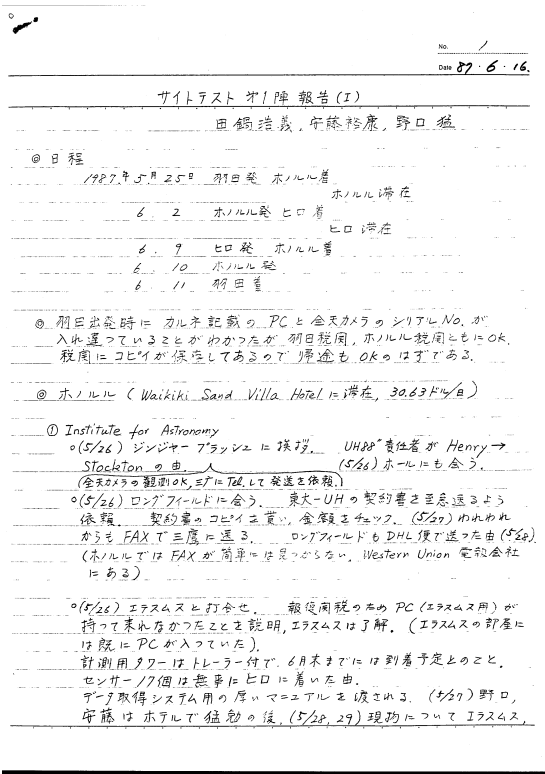


図1 隊長他1次隊の報告

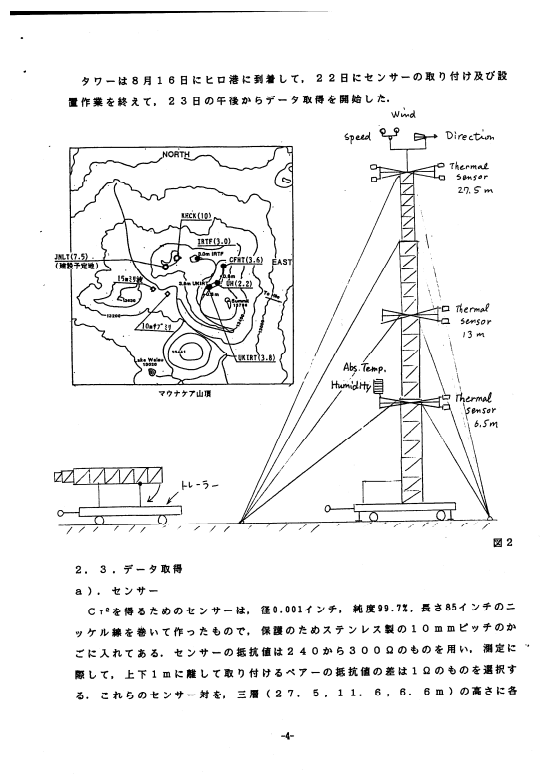


図2 タワー到着の報告

これらの報告は、138頁に及んでいる。写真4がデジタル化されCDに記録されたもので

ある。

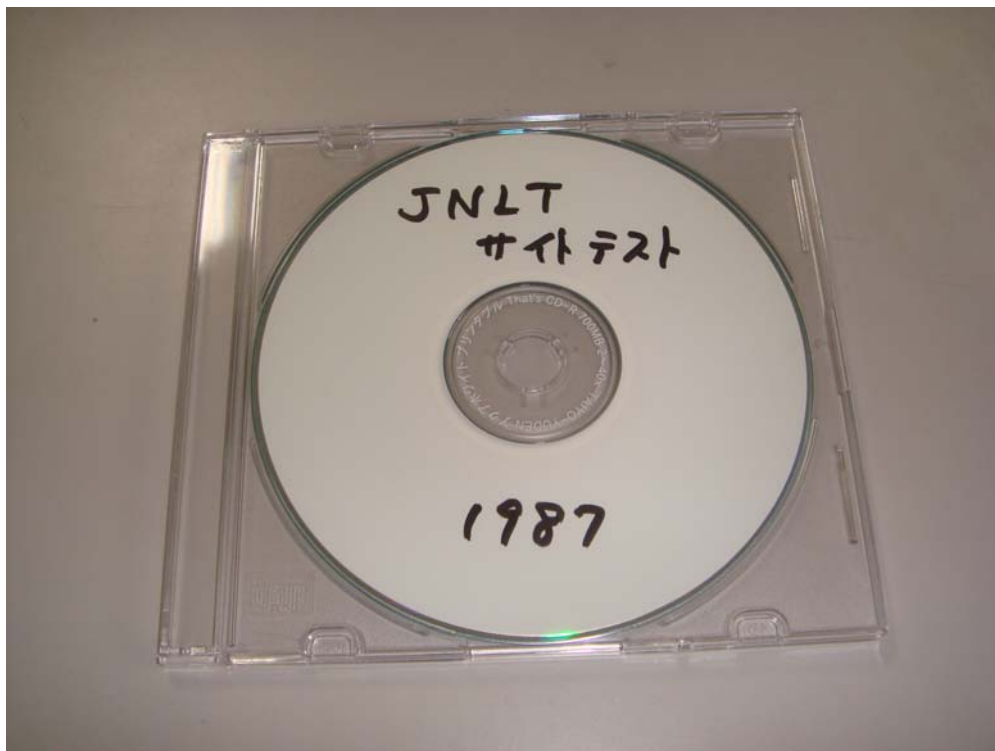


写真4 デジタルデータになったサイト調査報告